愛知教育大学教育実践総合センター紀要
第8号，pp. 115～123（February, 2005）

国語科“写真リテラシー”の基礎・基本学習から発信・評価学習へ

－到達目標（評価基準）を明確にした授業・評価開発（小学校1年生）－

佐　藤　洋　一　（愛知教育大学　国語教育講座）
千　崎　晶　美　（名古屋市立西中島小学校教諭）
（2004年10月27日受理）

How to make our pupils learn the basis of “Photographs Literacy” then express their own ideas actively in Japanese language classes

- A trial to develop a new class and it,s evaluation system with a clear standard (For first grades at elementary schools) -

Yoichi SATO (Department of Japanese Languages, Aichi University of Education)
Masami SENZAKI (Nishinakajima elementary school, Nagoya)

要約　学校教育全体の中核としての「国語学力」の向上，そのための具体的な授業・教材・評価方法の開発と提案が緊急に求められている。一方，「伝え合う力を高める」という学習指導要領「国語科」の趣旨が表面的に理解されたため，安易な「話す・聞く・活動型の学習」が蔓延し，子ども達の論理的なコミュニケーション能力（話す聞く・書く），文字や音声・メディア等の多様な情報を「読み解く力＝リテラシー能力」の基礎・基本がきわめて低下している現実がある。

国語科の基礎・基本から発展学力を，子ども達に「楽しく・シンプルに・系統的に」身につけさせるためには，何よりも漠然とした方向目標やめやす（「国研」の規準）ではない「到達目標（評価基準）」の明確な授業・評価システムの開発が必要不可欠である。本稿は子ども達に論理的で豊かなコミュニケーション能力と多様な情報を「正確に」理解し主体的に判断・批評することのできる情報リテラシー能力の基礎・基本を育成するために，静止画像であるメディア（写真リテラシー）の教材開発・授業開発・評価方法の開発等を通して，今日的な国語学力育成の課題について実践的に提案したものである。

Keywords：写真（情報）リテラシー　到達目標（評価基準）　論理的な思考力　学習シートの開発

1．はじめに

(1)　子ども達の実態と「学び方・評価」上の混乱

現在小学校に通っている子ども達は，幼い頃から絵本だけでなく，テレビやビデオなどの視覚情報があふれる中で育ち，小学校入学後も遊びはテレビゲームやパソコンが中心，という生活をしている。そのため，視覚情報に対しての反応は速く，画像への美的感覚も鋭い。多くの情報を盛り込んでいる絵や写真，映像を見て，細部の情報も見逃さずに捉えることのできる子も多く，瞬時に情報をつかむ能力の素晴らしさに驚かされることがしばしばある。

しかし，細かな違いを見分けることができても，画像だけに集中して説明の文や音声に気が回らなかったり，部分的な画像から全体を推測することができなかったりすることもあり，情報の感覚的・断片的理解による誤解等も多い。これは，写真や広告，アニメーションなどの情報を「正確に」「豊かに」理解する「情報リテラシー」が身に付いていないことが要因として考えられる。このような子ども達の実態と結びつけ，絵や写真などをことばに変換して正しく読んだり書いたりする力を身につけさせる学習はほとんど行われていない。これらの学習を，広い意味でのことばの学習であり，国語科の学習であると捉え，言語と非言語（写真や挿絵等）を組み合わせた効果的な「伝え合う力」を身につけさせる授業を行う必要があると思われる。

2．「伝え合う力」育成の実践的な課題

(1)　「到達目標（評価基準）」を明確にした指導と評価

これまでのコミュニケーション学習というと，態度や意欲に目を向けるものが多く，身に付ける“話す・聞く”に関しての言語技術が明確ではなかった。低学年では特に，テーマが楽しかったこと・面白かったこと等，従来の生活作文の流れをくむものが多く，まず活動ありきで楽しく一生懸命やっても，言語技術が身に付かない，付いた力が自覚できないことが多かった。しかし，これでは真の「伝え合う力」を育成することはできない。

今，求められる「伝え合う力」を育成するためには，言語と非言語の効果的な組み合わせによるコミュニケーションの方法を理解させ，「生きる力」として身につけさせることが重要である。そのためには，「到達目標（評価基準）」の明確な学習過程を構成すること

が重要なポイントとなる。こうした実践課題に応えるためには，以下の四つが必要である。

①話す・聞く・伝え合う力は，文字やメディア情報などを読み解く力，論理的に書くまとめる力と結びつけて指導すること

②小学校低学年の実態を考慮し，中・高学年につながる論理的で豊かな「情報リテラシー」「コミュニケーション」能力を“段階的に”指導すること

③メディア情報を読み解く指導にはメディア情報の中でも，基本的な理解と指導しやすい静止画像としての写真を活用することが，国語科を基礎・基本にしたメディア・リテラシー教育の基本学習となること

④複数の写真が効果的に配置された説明文教材を用い，「写真」を読み解く基本的な言語技術やコミュニケーションの方法を明らかにし，楽しく発信・交流評価する学習過程を構成すること

本実践では，この四点を踏まえて，説明文教材「かくれているのはなに」(教出・小１)「どうぶつのはな」(東書・小１)を情報の理解・判断・構成・発信させる〈学習モデル〉として扱い，写真リテラシーのポイントを理解させた。その後，情報の発見から選択をして，言語と非言語の組み合わせた発信・評価への言語能力を身につける学習過程を設定した。

(3) 写真を読み解く有為性

国語科において挿絵や写真は文章の付属であるので，写真を“読み解く”学習が必要か疑問であるという声が聞かれる。もちろん，ことばの学習が国語科の学習である。しかし，子ども達が大好きな絵や写真などに詰まった情報をことばに変換して正しく読んだり書いたりする力は，広い意味でのことばの学習であり，国語科の学習である。

低学年の説明文教材や文学教材では，図や絵，写真が多用されている。絵や写真などもことばと同様の役割を担い，その組み合わせによって効果的な表現になっている。「見ただけで分かる」と勘違いされている絵や写真などを，正確に認識できないために誤読が起こる場合は，文学教材でも説明文教材でも同様であり，学年が下がると，その誤読を修正しにくい。低学年から絵や写真などを読み取る学習をする必要があると考える。

そのためには，到達目標（評価基準）を絞り，写真（非言語）と説明文（言語）という，情報の組み合わせによる効果的なコミュニケーションの方法（問いかけ・文型・キーワード・つくりとまとめの対応・三段階の構成など）を理解させることが必要である。また，文章構成や話型を学んで，写真と言葉を組み合わせて「説明・報告」する技術を身につけさせる学習に発展させていきたいと考えた。

３．実践の概要

(1) 児童の実態

小学校入門期の子ども達は好奇心いっぱいで，どの子も学習に意欲的である。しかし，個別では言語技術能力に大きな開きがある。子ども達の知的好奇心を失わせず，どの子も楽しく取り組むことができるような配慮が必要である。

動物や昆虫は，小学校低学年の子ども達にとって興味関心が高く，身近な存在である。動物や昆虫を擬人化し，友達のように声をかけたり感情移入して写真や挿絵を見る子も多い。このように，知っているつもりで知らないことの多い動物や昆虫の体のつくりについてスピーチ発表会をすることで，子ども達の知的好奇心を刺激していきたい。

(2) 指導目標

①写真リテラシー（読む力）を低学年でも楽しくシンプルに身につけさせる。

【写真リテラシーの基礎・基本】

②言語と非言語の組み合わせによる，効果的な表現方法を理解させる。

【論理的で効果的な伝達方法の理解】

③説明文を読むことから，書く・話す・聞く力を関連して身につけさせる。

【「伝え合う力」の育成】

(3) 実践計画　　－表１－

「到達目標」を明確にした5段階の学習課程（表１）

5段階の学習課程	写真リテラシーのポイント
導入・基礎技術（１時間） 写真リテラシーのポイントを学ぶ。	(1) 写真の特性の理解 ……ある立場から選ばれた「もう一つの現実」 (2) 写真の構図の中心の理解 ……被写体の選択 (3) アップ(拡大・部分)とルーズ(全体・背景)の理解 ……発信者の意図・背景の意味 (4) 写真説明（キャプション）の理解 ……写真の解釈・意味付け (5) 写真と文章の組み合わせの理解 ……言語と非言語の補完関係 (6) 資料（写真やイラストなど）の活用 ……効果的なコミュニケーションの方法
基本学習（２時間） 教材文の文章と写真の関係を読み解く。	
発展的学習（３時間） 紹介したい動物の情報を収集・選択して、三段階のレポート型校正で、スピーチ原稿をかく。	
発信学習（1.5時間） 分かりやすく表現するために、効果的な話し方（声量・速さ・資料活用等）を学ぶ。	
評価学習（0.5時間） 自分や友達のスピーチのよいところ（内容・話し方・聞き方）を見つける。	

資料１

小学校１学年　国語科学習指導案

学習者　１年２組２６名（男子 12 名　女子 14 名）
授業者　千崎晶美（名古屋市立西中島小学校）

1，単元名　“写真リテラシー”の基礎・基本学習から発信・評価学習へ
ー「かくれているのはなに」(教出･小１)「どうぶつのはな」(東書･小１)を使ってー

2，学習目標と評価基準ー到達目標を明確にした授業づくりのポイントー

(1)評価基準のポイント

①写真リテラシーのポイントを理解する。　**【写真リテラシーの基礎・基本】**
②教材文を，写真と文章を結びつけて正しく読み取ることができる。　**【内容の正確な理解】**
③動物の鼻を紹介する話型と論理的な内容構成を理解することができる。**【論理的な構成の基本】**
④動物の体のつくりについての情報を選択し，わかりやすく記述することができる。**【情報の選択と再構成】**
⑤写真を提示して，わかりやすいスピーチをすることができる。　**【説明技術の基礎・基本】**
⑥友達のスピーチを聞いて，質問したり意見･疑問を持ったりすることができる。　**【コミュニケーションの基礎・基本】**
⑦自分や友達のスピーチの良さ（内容･話し方など）を見つけられる。　**【自己評価能力】**

3，学習計画（８時間完了）

□･･･写真リテラシーのポイント　□･･･評価基準

段	時	主な学習活動	評価の観点と指導・支援
導入・基礎技術	1	1　学級全体で大きな動物パズルをする。 (1)　グループに一枚の部分写真から，動物を考える。 (2)　部分写真を組み合わせ,全体写真にする。 2　写真で動物の紹介をすることを知る。 3　**学習シート①**を使い，質問に答えながら，写真リテラシーのポイントを理解する。 **⇒資料３** 4　範読による全文通読をする。	1　部分と全体では，写真の印象が違うことを気付かせたい。 (1)　部分写真から，動物の特徴を捉え，どの部分かもグループで話し合わせる。 (2)　写真の部分と全体では，イメージが全く違うことに気付かせ，部分と全体に意識を向けさせる。 3　写真リテラシーのポイント，を楽しく学ばせたい。 ①構図の中心，②アップ（部分・拡大）とルーズ（全体・背景） ③短いタイトル（キャプション）の理解 (1)写真を読むポイントを理解することができたか。 (2)写真への興味関心をもつことができたか。
基本学習	2 3	1　**学習シート②**で，具体例とその特徴を，写真と組み合わせて理解する。**⇒資料４，５** 2　三つの具体例とその特徴を理解する。 3　スピーチをする時の，内容構成と話型を知る。 **⇒資料６，７**	1　キーワードを穴埋め式にした**学習シート②**を使い，写真と文字の組み合わせで説明することの有効性を知らせる。 2　動物の住む場所，鼻の形・動きや働きについてキーワードを確認しながら，読み取る。 3　**学習シート③**を使い，教材文をモデルにして，内容構成と話型を自分のスピーチに生かす方法を知らせる。 写真と文章を効果的に組み合わせることができる。 ①写真と文章の補完関係の理解，②内容と一致した写真の選択 はじめ・なか・まとめという「三段階の内容構成」と基本的な「話型」は，自分の表現に生かすことを理解できたか。
発展的学習	4	1　友達に伝えたい動物を選ぶ。 (1)　拡大した動物の写真を広げ，選んだ動物ごとにグループに分かれる。 (2)　グループで話し合ってどの体の部分を選ぶか，どんな写真を選ぶかを考える。 2　**学習シート④**に，自分の選んだ動物について，スピーチ原稿をかく。 **⇒資料８** (1)　絵や写真（部分と全体）をつける。 (2)　選んだ体の部分について説明を書く。 (3)　伝えるべき情報を選択し，下半分の原稿の記述をする。	1　「すごい，おもしろいと思った動物やその体の部分」という視点から，動物を選ばせる。 (1)　基本学習で学んだことを想起させる。 (2)　全体の写真は教師があらかじめ何枚か（生息地や活動の様子の写っているもの）を用意しておき，その中から選ばせる。 2　**学習シート④**には，子どもたちが自由にかけるようスペースを広く取った。 (1)　動物のすむ場所，部分の形・動きや働き…等みんなが知りたいと思う情報を，資料から調べて書き加えさせる。 (2)　絵や写真を選んでから下半分を書くことで，伝えたい情報を選択・判断することが容易になり，手助けとなる。 ①伝えたい内容に一致した写真の選択，②短いタイトル（キャプション）の作成 **学習シート**に自分の選んだ動物について，詳しくスピーチ原稿をかくことができたか。
発信・交流学習	5 6	1　写真を提示しながら，話し方を工夫し，スピーチ発表会をする。 2　スピーチの評価について発表会おさらいカードをもとに，話し方・聞き方について自己評価し，友達の良いところを文章で相互評価する。 **⇒資料９** (1)　自己評価は,◎・◎・○の三段階で行う。 (2)　相互評価は，友達に手紙を書く形式で行う。	1　原稿や写真を，発表するまで他のグループの子に見せないようにすることで，聞く楽しみを持続させる。 (1)　話すことが照れくさい子も安心して話すことができるような受け入れる雰囲気作りをする。 2　選んだ動物や写真の箇所に，それぞれの工夫や個性が表れるので，その点を認めるようにする。 (1)　評価の正確さよりも，自己で評価することに意義があり，評価の項目を意識づけることが重要である。 (2)　評価項目を基に，話し方の良い点に目を向けさせ，スピーチの感想や分かったことを，カードの例を参考にして書かせる。 ①写真を活用した効果的なスピーチ，②タイミングの合った写真の提示方法 写真を見せながら，姿勢・声の大きさに気を付けて話し，態度や姿勢，キーワードを正確に理解し，友達の質問や考えにも注意して聞くことができたか。
評価学習	･･･	1　友達のスピーチの良さについて,発表する。 2　スピーチ発表会で学習したことを振り返る。 3　この学習で学んだことは，これからのスピーチ学習にも生かせることを知る。	1　友達の上手なところは，スピーチ評価カードの観点をもとに良さを認めるようにする。 3　自己評価した観点は，今後のスピーチに生かすことができると知らせる。 楽しみながら「話す・聞く」の基本を学び，評価活動を行うことができたか。

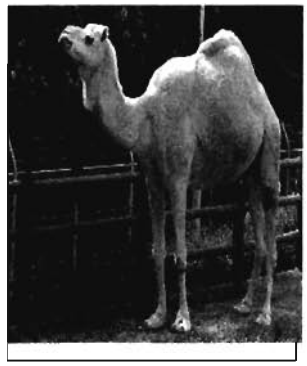
資料２　学習シート①　導入・基礎技術－写真リテラシーのポイント

「どうぶつのはな」がくしゅうシート⑦

なまえ

☆　しゃしんのことを、たのしくまなびましょう。
しゃしんをみて　どんなことがわかりますか？

※ B4版で使用、ゴシックの文字なしで児童は使用、以下同じ

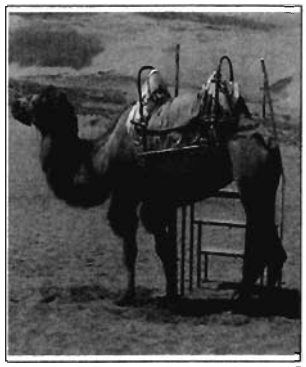


⑦　なにが、うつっていますか？
ちゅうしんにあるのは、なんですか？
つぎの三つから　えらんでね。

↓　**構図の中心**

ア、らくだ
イ、く　さ
ウ、どうぶつえん

しゃしんの　ちゅうしんを　みる。



②　⑦とおなじどうぶつがうつっています。
2まいをくらべると、なにがちがいますか？
つぎの三つから　えらんでね。

↓　**背景の意味**

ア、てんき
イ、うしろの　けしき
（はいけい）
ウ、からだの　むき

はいけいに　きをつけて　みる。

③　なにに、みえるかな？
このしゃしんに、なまえを　つけてみよう。
つぎの三つから　えらんでね。

↓　**短いタイトルによる意味づけ**

ア、もっと、はやくはしれ
イ、みずは、きもちいい～
ウ、おもたいなぁ…

なまえを　つけると　みかたが　かわる。

４．教材の選択と生かし方の視点

子ども達に説明文教材で教えたい事柄は，論理的思考力と情報の奥にある仕組みを読み取りその方法を１つのモデルにして書く力である。教科書教材は部分としては良いものがあるが，これらのことを学習するにはうまく作られていないものが多く，情報理解・構成・判断・発信等のモデルにならない。そこで，教材を二つ使い，論理的思考力や３段階のレポート型構成などを教えていくことを構想した。

今回扱った二つの教材は，小学一年生が入学後初めて学ぶ説明文であり，生き物を題材にして写真を豊富に取り入れている。動物や昆虫という題材は，図鑑や絵本を見慣れた低学年の生活経験に密着している。

教材「どうぶつのはな」は，部分と全体の写真が効果的に使われていて，写真がある立場・視点から選ばれた「もう一つの現実」であることを理解しやすい。教材「かくれているのはなに」では，部分と全体の写真とともに，時間の経過した写真を活用している。これらの豊富な写真から，写真を提示する方法の違いに興味関心を高め，写真リテラシーのポイント，（ⅰ）構図の中心，（ⅱ）アップ（拡大・部分）とルーズ（全体・背景），（ⅲ）短いタイトル（キャプション）を学ぶことに適している。

この二教材を扱うことで，子ども達には２枚の写真を配列する方法（部分と全体，時間の経過）に違いがあること，自分たちの表現に生かせることを学ばせる。

このように，教材をモデルにすることで，「好きな動物や昆虫を調べて楽しかった。」という作文で終わるのではなく，低学年から「はじめ・なか・まとめ」のレポート型構成で書かせることができる。また，原稿をもとに，写真を活用して，動物や昆虫をテーマに論理的なスピーチすることは，写真・イラスト・映像・絵本等を解釈したり，発信のために自分の立場から再構成したりすることにも発展できる。

５．国語科学習指導案　　資料１（前頁を参照）

６．指導の実際

(1)　導入・基礎技術

まず，動物の拡大写真を切り分けた，簡単なパズルを学級全体で２回行った。各班に１片ずつ配布し，動物の名前を考えてから，最後に組み合わせた。大きな動物の写真に目を輝かせて，意欲を高めた子ども達に，動物の写真で勉強をすると話した。

続いて，学習シート①（資料２）を配布し，写真をカラーにして提示しながら，三択の設問を行った。生活経験から子ども達は感覚的に写真の知識を身につけているので，その知識を引き出し整理して，写真リテラシーのポイントとして自覚させることをねらいとした。設問①では，最初に写真の中心を見ることを，設

資料３　基本学習－教材文からスピーチの構成へ

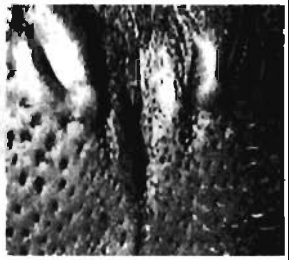
「どうぶつのはな」がくしゅうシート②

なまえ

☆きょうかしょの ぶんを スピーチのかきかたに なおしましょう。

☆ うすい ところは、なぞりましょう。

☆このぶんは、スピーチの かきかたに なっています。
これから、みんなで つかってみましょう。



みなさん、みてください。
フクロウ です。
どうですか。

ここに，ぴったりの しゃしんを はりましょう。

これは かばのはな です。
かばは、かわや ぬまの ちかくに すんでいます。
かばは、はなの あなを とじる ことが できます。
かばの はなは、とても べんりです。

ここに，ぴったりの しゃしんを はりましょう。

資料４　基本学習－写真の判断・選択

「どうぶつのはな」がくしゅうシート②（しゃしん）

☆ この ２まいの しゃしんを きりとって はりましょう。

☆ せつめいの ぶんと ぴったり あう ように はることが できましたか。

資料５　基本学習－写真と文章の組み合わせ

「どうぶつのはな」がくしゅうシート②

なまえ

☆きょうかしょの ぶんを スピーチのかきかたに なおしましょう。

☆ うすい ところは、なぞりましょう。

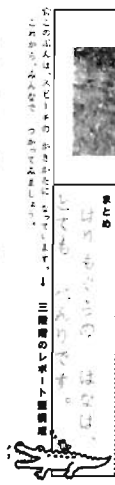
☆このぶんは、スピーチの かきかたに なっています。
これから、みんなで つかってみましょう。

問いかけ　みなさん、みてください。
どうですか。

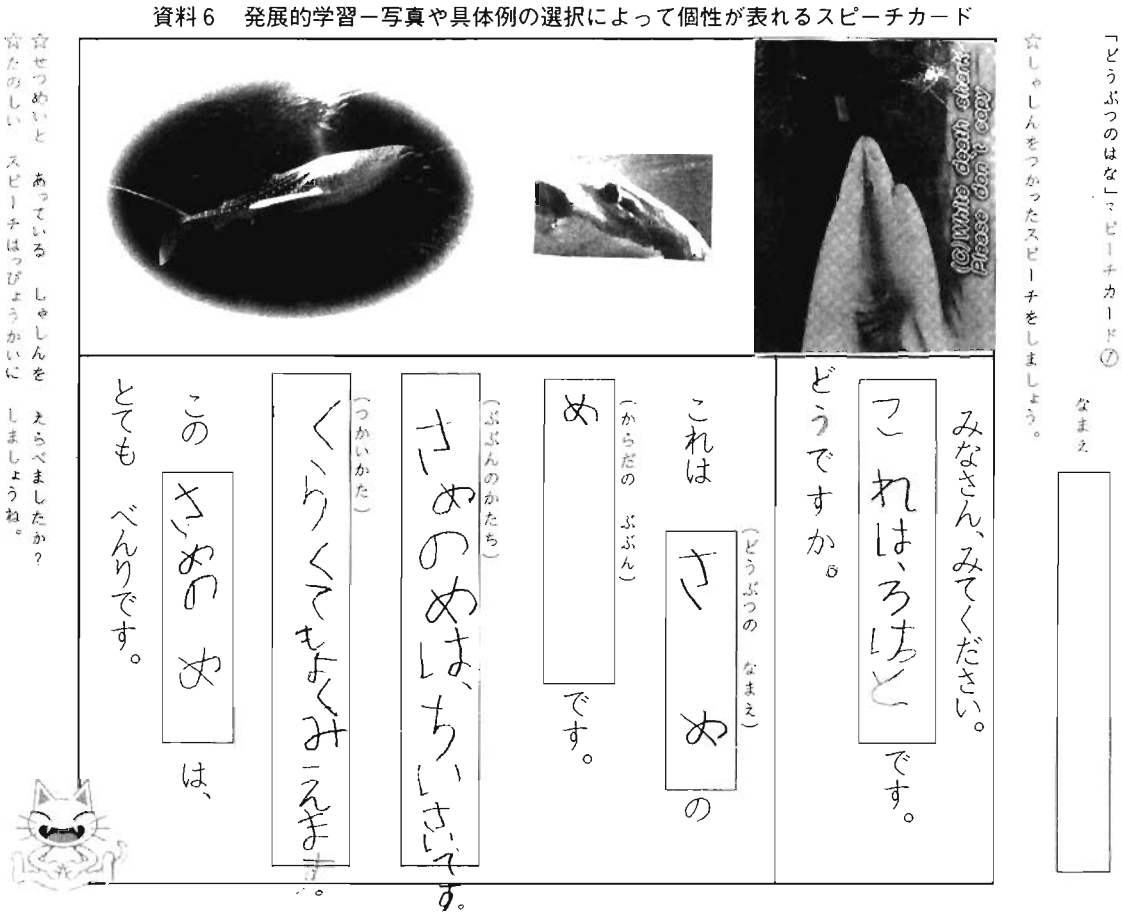
はじめ　これは はなです。

なか　はりもぐらの はなは、ながく います。
はなのさきで、おちばや つちを ありや しろありを たべます。

まとめ　はりもぐらの はなは、とても べんりです。



資料６　発展的学習－写真や具体例の選択によって個性が表れるスピーチカード



問②では，同じ動物の背景が違う写真を提示し，２枚を比較して子ども達が気付いたことを整理しながら，背景によって写真の意味が変化することを学ばせた。設問③では答えを限定せずに，写真の説明（キャプション）を選ばせ，選んだ理由を発表させた。「このゾウは三人も乗せているから，きっと重たいよ」「水に入って気持ちいいと思うよ」などど考えを交流させ，教師が整理した後，写真の説明（キャプション）による見方の変化を知らせた。このように，三つの写真リテラシーのポイントを楽しく学ばせることができた。

(2)　基本学習

写真を「正確に」「豊かに」理解させた後，教材文「どうぶつのはな」（こみやまひろし著，東書小１上）を音読した。この教材は，生き物を題材にして，アップとルーズの写真が紙面いっぱいにクイズのように配置され，次頁を繰る楽しみを持たせる構成になっている。子ども達の大好きな要素が詰まっているので，無理なく十分な音読練習ができた。

まず学習シート②（資料３）を使って，導入と同様に鼻のアップ写真に名前を付け，「はじめ」・「なか」の部分の教材文のキーワードを書き込ませた。カバの鼻のアップ写真に，「ふくろう」「わに」「かいじゅう」といった様々な名前が付けられた。次に，写真用の学習シート（資料４）に載せてある，４枚の写真からカバの鼻を紹介する時にふさわしい写真を選択し，説明の部分に対応させて切り貼りした。子ども達は，「ここは口の説明じゃないよ」「おしりに写真だとあわないよね」と言いながら全員が楽しく，正しく切り貼りすることができた。押さえたい問いかけ・文型はなぞらせ，キーワードは穴埋め式で記述させることで，理解させた。このことにより，文章を写真と結びつけて読んでいく必要性に気付かせた。学習シート③（資料５）も同様の手順で行い，習熟を図った。

この時間では，教材文をスピーチ原稿のモデルとして提示し，文章と写真を組み合わせたコミュニケーションの方法を理解させることをねらいとした。このシートで示した，問いかけ・話型・三つのレポート型構成など「読むこと」の評価基準をこの時間に正しく身につけさせることは，次のステップであるスピーチ原稿の記述を容易にした。

(3)　発展的学習

まず，紹介したい動物を選び，２～５人に別れ６つグループを作った。今回は，発表への負担軽減と資料収集の円滑化を図るため，グループでのスピーチ発表にした。動物を選んでから分かれたので，個の意欲が持続できた。次に，聞き手が興味を持つような体の部分とアップの写真を選んでから，その動物の情報を収集・選択・判断・再構成し，スピーチカード（資料６）を使って原稿の記述に入った。紹介する部分や使用する写真は，教師が準備した複数の中から選び，話し合

資料７　発信・評価学習ースピーチ評価カードとその結果

はっぴょうかいおさらいカード
はっぴょうかいで、きちんとできたかな？

1　しっかりおはなしできたかな？ ◎・○・○でつけてみよう。

①	みんなにきこえるようなこえの大きさでおはなしできましたか？	
②	ともだちのかおをみて、おはなしできましたか？	
③	じゅんばんをまもって、おはなしできましたか？	
④	しゃしんをみせながら、おはなしできましたか？	
⑤	ともだちにおはなしするのは、たのしかったですか？	

2　しっかりおはなしきけたかな？ ◎・○・○でつけてみよう。

①	はなしている人のかおを見て、おはなしがきけましたか？	
②	どうぶつのからだのぶぶんと、そのつかいかたがわかりましたか？	
③	わからなかったことをしつもんすることができましたか？	
④	しつもんやいけんをかんがえながら、きけましたか？	
⑤	ともだちのはなしかたから、まねしたいところをみつけましたか？	

3　ともだちにてがみをあげよう。

ともだちのはっぴょうをきいて、おもったこと・じょうずだったところをてがみにかいてみよう。

【れい】

たかしくんへ
しせいがよくて、おはなしするこえがよくきこえたよ。
らいおんのくちびるが、どうしてわれているのか、
よくわかったよ。
またおしえてね。
まきさんへ
いのししのしゃしんが、おもしろかったよ。
たのしそうに　おはなししていたね。
☆　ともだちの　よかったところが、かけましたか？

相互評価（友達へのお手紙）から

1 がんばったね。じょうずだったよ。もっと声を大きくするとよかったね。

2 ぞうの耳，すごいよね。お話は，じょうずだよ。おもしろかったよ。

3 姿勢が正しくて聞きやすかったよ。

4 お魚のヒラメのことは，初めて知りました。ヒラメは石とそっくりになるって初めて知りました。すごく上手でしたね。これからもヒラメやいろいろなことをがんばってやってくださいね。

5 イルカの鼻が円くてすごかったね。

6 アザラシのことをちょうど知りたかったところだから，いろいろ知れてよかったよ。アザラシがどういうふうに隠れるのか分かったよ。

7 大きな声だったね。すごいね。

8 Ｙさんがもっていたサメがかっこよかったよ。

9 ヒラメが小さくて面白かったよ。（写真は）横から撮ってたね。

10 しゃべるときにきれいな声ですごくじょうずだったよ。また聞かせてね。

11 ウサギのお話じょうずだったね。

いながら決めることができた。個人的な感情だけでスピーチ内容を決定するのではなく，聞き手のことを考えながら話し合う様子が見られ，グループで考え，話し合うことで，これまでの学習を想起し，活用していることを感じた。また，学んだことを自分たちで考え体験することで，学習内容を復習させることができた。

その後，説明にふさわしいルーズの写真を選んで原稿を完成させ，スピーチの練習を行った。選ぶ動物の部分については口や手足等，幅を持たせたので，スピーチに個性が表れ，広がりが出てきた。背景の違うルーズの写真を二枚選ぶ場合も考え，スピーチカードは二つのパターンを使用した。

ここでは，学習シート②③で学んだ問いかけ・話型・三段階の構成などを，「書くこと」の評価基準としてスピーチカードに示し，実践することをねらいとした。基本学習で理解したことをそのまま自分の発表に生かすことができるので，つながりがスムースになり，写真を使って原稿を書くことも容易になった。

(4)　発信・交流学習

発表会は，「発表会おさらいカード」（資料７）を教室の側面に拡大掲示して，話すこと・聞くことの評価基準を示し，同時に話し方・聞き方の努力の方向を常に意識させるようにした。話し手は，２～３枚の写真を提示しながらグループで分担して発表し，聞き手は写真を見ながら，驚いたり「聞いたことがある」とうなずいたりしながら楽しい発表会となった。普段は消極的な子が質問をしたり，考えを述べたりするなど，生き生きと笑顔があふれる時間となった。

スピーチを発表することで，選んだ動物や写真から個性を発揮することができた。各グループのスピーチ内容は，①小さくても暗いところがよく見えるサメの目，②クジラのように噴気するイルカの鼻，③小さな音もよく聞こえるゾウの耳，④小さな音を聞き分けるウサギの耳，⑤海底で擬態するヒラメ，⑥南極の氷雪と同色で生まれるアザラシの赤ちゃん，であった。これらのスピーチを聞き，質問することで，それぞれの学んだ知識を学級全体に共有させることができた。

(5)　評価学習

発表会の後，「発表会おさらいカード」で評価しながら，自分が項目に気をつけることができたかを意識させることと，項目の観点が定着させることをねらって，三段階で自己評価を行った。この評価カードは，子ども達に何が課題かという到達目標（評価基準）を見えるように示しチェックさせること，教師の指導不足を補充する際の確認のために使うこと，の二点をねらいとしたシートである。そのため，カードの配布に際して，三段階の自己評価は，教師が評価するためではなく自分のためにやるんだ，と安心させ，できていない時は教師に聞いてよいことを確認して行った。

また，友達の発表について手紙という形で相互評価させた。「発表会おさらいカード」の例を参考にすること，他の発表を聞く時にも「話すこと」の評価基準の項目を生かせることを確認してから，手紙を書かせた。子ども達は，「話すこと」の項目に沿って「姿勢

良く，聞きやすかったよ。」「もう少し大きな声で話すとよかったね。」という，具体的な相互評価を行うことができた。このことにより，「話すこと・聞くこと」の指導事項を全員に身に付けさせることができた。

７．考察

(1) 「到達目標(評価基準)」を明確にした授業づくり

小学校低学年の児童に写真リテラシーの実践というと，「写真を学ぶのは難しい」「小学校低学年に，写真はまだ早い」という声もある。しかし，到達目標を明確にし，指導事項を絞ることで，子ども達が何を学んだかを自覚し，楽しく学習することができる。

今回の実践では，写真について指導事項の焦点を絞って，生活経験から感覚的には分かっていることを押さえて自覚化させながら，授業を行うことより，普段は控えめな子が自信を持って写真から読み取ったことを話す姿や，周りに流されがちな子が学んだことを基に自分の考えをきちんと話し合う姿が見られた。

(2) なぜ写真リテラシーか？－写真と組み合わされた説明文教材の生かし方－

メディア情報の中でも，写真は「ある立場・視点から選ばれたもう一つの現実」であること，レイアウトや色彩，アングルなどにメッセージの方法が語られていること，静止画像のために理解しやすいこと…などの性質からメディア情報を読み解く基本学習のために有効である。

文章とともに写真からも情報を正確に読み取り，言語と非言語（写真）の組み合わせによるコミュニケーションの方法と，その良さに気づく学習を行うことで絵本の絵を見るだけだった子や，算数で挿絵から答えを導き出す子なども，言語への意識が高まり，写真を用いたスピーチ発表会を楽しんで行うことができた。静止画像である写真リテラシーの学習を低学年で積み重ねることが，高学年でのニュース番組などの映像を生かした情報リテラシーの基礎づくりとなる。

(3) ５段階の学習過程の意味

小学校低学年の集中力には持続性があまりない。多くの内容を時間をかけて行うことは難しい。指導事項を焦点化して，学習過程を分けて設定することが重要である。分けずに行うと，活動と教材の読み取りとが混乱して，あれもこれもになってしまう。これでは楽しいけれど，どんな力が身に付いたのか分からないまま終わってしまう。また，学習過程の分け方も漠然としたものではなく，基礎・基本が何で，その発展的な学習が何かを明確に示すことが大切である。さらに，過程を明確にすることで，子ども達に学習の見通しをもたせることができる。

今回の実践では，５段階に分けて学習過程を設定することで，テンポ良く学習することができた。学んだことを次に生かすという段階的に学習を設定し，次のステップに進ませるというパターンを繰り返し行うことで言語技術の定着化を図ることが，小学校低学年には有効である。この学習過程の設定により，高学年になって“多くの情報収集はできるが，それらを判断・再構成して発表できない”という状況を変えることができる。到達目標（評価基準）を明確にし，段階的に身につけさせることは，有効な方法である。

(4) 学習シートの開発と生かし方

学習シートは答えや考えを書き込むだけではなく，学習したことを子ども達が振り返り，自覚できるようにする必要がある。授業のねらいと学び方，自ら学ぶ力へ展開するポイントが明確になった学習シートの開発が求められる。

今回の実践では，写真リテラシーのポイントを理解し，考えを交流させながら写真を読み解く学習を，学習シートを用いたことで楽しく行うことができた。また，写真と文章の関係を考えながら，資料（写真）を提示するスピーチの型を学ばせる学習シートによって，文章に合わせた写真を正確に選び，組み合わせることができた。

学習シートを活用することで，言語技術に不安のある子も自信をもって学習できる。また，十分に指導事項を理解している子でも，発展的な学習で具体例や写真の選択をすることにより，自分の個性を発揮することができる。また，この学習が中学年になると，新聞作りやパンフレット作りなど資料を使ったより高度な言語活動に発展していく。その際にも生かすことができるような写真リテラシーの基礎・基本を身につけさせる必要がある。

８．おわりに

今，求められている「伝え合う力」を身に付ける学習のために，メディア・リテラシー教育が様々な形で行われている。これらの学習を行う基盤として，また，学習の初歩段階として，「情報リテラシー」の具体的な実践を小学校低学年対象から行う必要があると思われる。これは，国語科だけでなく，総合的学習や他教科との関連に置いても必須の今日的課題であると考える。本稿での実践は，これらの発展性にも対応できるものとして考えたものである。

今回は，多様化するメディアの中から写真に絞って情報を得る手段として理解する時に気をつけるポイントを示し，このポイントに着目して，説明文教材をモデルとして読み取り，学んだことを生かしてスピーチを行った。このような実践が小学校低学年から行われた後，中・高学年になってからの新聞作り，ポスターセッション，プレゼンテーションなどの様々な活動へと，段階的に発展していくことが望ましいと考える。

以上，本稿では，到達目標（評価基準）を明確にして，写真に代表される，視覚情報をクリティカルに理

解することのできる担い手を育成する実践として構成した。様々な教材のよい部分を生かしながら子ども達の今日的な課題に取り組み，実践を構想する必要があると考える。

〈付記〉

本稿は，千崎による第67回国語教育全国大会（日本国語教育学会主催，2004年８月９～10日，青山学院大学）での発表内容を補筆・修正したものである。

なお，紙面の制約上，児童のスピーチ原稿やスピーチ資料としての写真，作成した学習シートの細部に関する詳細と考察は省略したことをお断りする。

〈参考〉本稿の授業研究・評価論の提案のポイント ―学会発表における質疑への対応を例に―

学会発表では賛同の声がほとんどだったが，従来の狭く片寄った国語授業方法論・評価論からの疑問や質問も多かった。以下の７項目は質問項目とそれについての考え方のポイントを簡潔にまとめたものである。

１．写真を「読む」ことが小学低学年で必要か？写真リテラシーの必要性

(1) 子ども達の現実は，絵や写真，映像などにあふれた生活である反面，それらの視覚的情報を正しく理解することができていない。

(2) ことばの学習が国語科の学習である。しかし，子ども達が大好きな絵や写真などをことばに変換して正しく読んだり書いたりする力は，広い意味でのことばの学習であり，国語科の学習である。

(3) 低学年の説明文教材や文学教材では，図や絵，写真が多用されている。絵や写真などもことばと同様の役割を担っている。読み取る学習は必要である。

２．「読むこと」の部会で「話すこと・聞くこと」までの実践をしているのは，なぜか？／これは「話すこと・聞くこと」重視の実践ではないのか？

(1) 「伝え合う力」は，「話すこと・聞くこと」領域で育成するものと誤解されたまま実践されているのではないか。真の「伝え合う力」，国語の力は読み・書きの力により支えられている。

(2) 聞く力は，情報を読み取る力である。この，情報には絵や写真なども含められる。

(3) 「読むこと」の分科会であっても，単なる読み取り・読解で終わらせず，伝え合う力へ広げていく必要がある。読む目的とともに広げる必要がある。（本当の意味での読む力が身に付く）

３．５段階の学習過程に分けるのは，なぜか？

(1) 学習過程を分けずに行うと，活動と教材の読み取りとが混乱して，あれもこれもと盛りだくさんになってしまう。これでは楽しいけれど，どんな力が身に付いたのか分からないまま終わってしまう。到達目標（評価基準）を段階的に身につけさせることが必要である。

(2) 学習過程の分け方も「導入・展開・まとめ」や「１次・２次」などの漠然としたものではいけない。基礎・基本が何で，その発展的な学習が何かを明確に示すことが大切である。

(3) 過程を明確にすることで，子ども達に学習の見通しをもたせることができる。

４．“情報リテラシー”とは，何か？（定義と必要性）

(1) 情報とは，写真だけではなく子ども達の現実にあふれる映像，絵本，文学や説明文を含めたものである。

(2) リテラシーとは，単なる読み取りや読解ではなく，情報を主体的に判断・批判していく力を身につけさせることである。（情報を収集・選択・判断・再構成する力とそれらを育てる取り組みである。）

５．教材を二つ使うことのはなぜか？／リライトした意図は？そのままではいけないか。

(1) 子ども達に説明文教材で教えたい事柄は，論理的思考力と情報の奥にある仕組みを読み取りその方法をモデルにして書く力である。

(2) 教科書教材は部分としては良いものがあるが，(1)のことを学習するにはうまく作られていないものが多く，モデルにならない。

(3) そこで，教材を二つ使い，論理的思考力や３段階のレポート型構成などを教えた。

６．３段階のレポート型構成とはなにか？／１年生で教える必要があるか。

(1) 「はじめ・なか・まとめ」は，「問題提起・具体例・考察（意味づけ）」であり，小学生に教えなければならない。きちんと「まとめ」をすることにより，論理的思考力や話す・聞く力を育てられる。

(2) 小学１～３年の間は，「まとめ」にならず感想にとどまる「おわり」の構成でも良いが，“カバの鼻は便利です”のように明確にすることは，高学年の学習にそのままつながっていく。

７．スピーチ評価カードの意味と，教師との評価のゆれについて

(1) 子ども達に何が課題かという到達目標（評価基準）を見えるように示し，チェックさせるためのシートである。

(2) 自己評価は，教師の評価による区別をするためではなく，自分のためにやるんだと安心させる。（できていない時は教師に聞いてよい）

(3) 教師の指導不足の補充する，その確認のために評価カードを使う。

〈主な参考文献〉

１，佐藤洋一　連載「到達目標としての『言語技術』」（明治図書，『教育科学国語教育2003年４月～2004年３月』）

２，佐藤洋一編著『国語科を核に総合的学習を創る』（明治図書，2000年）

３，佐藤洋一編著『実践・国語科から展開するメディア・リテラシー教育』（明治図書，2002年）

４，飯沢耕太郎著『写真美術館へようこそ』（講談社，1996年）

５，新藤健一著『新版　写真のワナ－ビジュアル・イメージの読み方－』（情報センター，1994年）

６，草野厚著『テレビ報道の正しい見方』（ＰＨＰ研究所，2000年）

７，川上和久著『情報操作とトリックーその歴史と方法－』（講談社，1994年）

８，菅谷明子著『メディアリテラシー』（岩波書店，2000年）

９，鈴木みどり著『スタディガイド　メディアリテラシー［入門編］』（リベルタ出版，2000年）